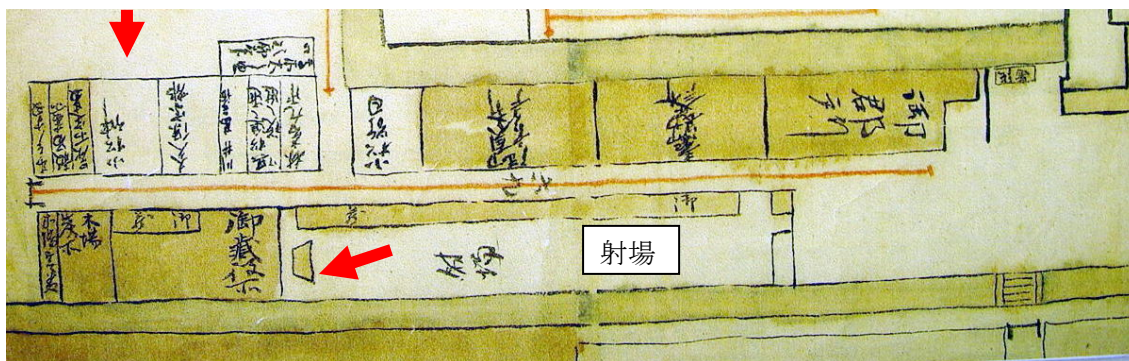


7-3

六九町の変遷

1 下は幕末の六九町の絵図です。郡所・表勘定所・御預所等が書かれています。それぞれの役所はどのような仕事をしていたのか下から選んでください。



A御郡所 (②) B表勘定所 (①) C御預所 (⑤)
 D御蔵役所 (⑥)

- ① 「天保9年城内より移転。金穀の収支、山林に関する諸政、紺屋・綿打・商札・質営業等の出願に対する許可を知り扱う。
 - ② 安永8年町所と合併した。領内の政務をおこなう。町内の警邏も行う。宗門方・物価の調節等をつかさどる値段方・川除方を等の分課があった。
 - ③ 藩主の内向きの収支を統括する。お坊主、鷹匠・餌差を統括した。(御勘定所)
 - ④ 武器・武器の保存・手入れ、購入、給与等の事務を扱う。(武具役所)
 - ⑤ 幕府領のうち松本藩の所管する地域の政務をつかさどった。
 - ⑥ 年貢米を収受し、藩士に対して扶持知行の配給を行った。
- 2 六九町の北側に「小松仲」の屋敷があります。彼は松本藩のある武芸の師範ですが、その武芸はどれでしょう。(③馬術) 流派は「当流」という。
 小松仲は50石。このほか松本藩の馬術は大坪流があった。
- 3 六九町の南側には安永5年厩が焼けた跡に「万俵蔵」が建てられました。その南側は「射場」となっています。赤矢印の施設は射場には必ずあるものですがその名称はなんというでしょう。漢字で「塚」と書きます。
 ③あずち ——弓を射る時、的の背後に土を山形に築いた所。
- 4 明治9年ころの六九町の様子です。六九町南側には開産社が展開しています。明治6年筑摩県によって産業振興のために設立された「勸業社」が明治7年開産社と改めたものでした。資金を蓄積し民間に融資することで産業を発展させることを目的としていました。

(1)「あ」の場所には植物がたくさん植えてありますがここは何と呼ばれていたでしょう。

③開産社植物試験場

(2)「い」は女鳥羽川の水流を利用した水車が「ガラ紡」といわれた太糸紡績機を動かしていました。この紡績機を発明したのは安曇郡小田井村出身の「臥雲辰致」ですが、人名に読みがなをつけてください。

がうん たっち

「臥雲辰致」

1842(天保13)～1900年(明治33)。安曇郡小田多井村(現掘金村)の足袋底織の間屋に生まれる。幼名は栄弥。実用には至らなかったが14歳の時から手紡ぎの機械を作る。機械に夢中の栄弥を心配した親は1861年(文久元)岩原村(旧掘金村)の宝隆山安楽寺に弟子に出す。法名は智恵。1867年(慶応3)には末寺の臥雲山瓢峰院の住持となるが、明治の排仏毀釈のため還俗し、臥雲辰致と名乗り岩原村に居住。再び紡機の発明に精進した。

1873年(明治6)ガラ紡機と呼ばれる太糸紡績機を発明。1875年には東筑摩郡波多村(現波田町)に移住。細糸製造にも成功して、松本の開産社内に連綿社をつくり器械製造を開始した。翌年には水車を使用したガラ紡機を運転。第一回の内国勸業博覧会で鳳紋賞牌を授与される。連綿社解散後は臥雲商会を興して1890年(明治23)に綿紡績の特許を受けた。ガラ紡機械は県内で普及しなかったが、三河地方などの綿作地帯に移入され、水車紡績、舟紡績として発展した。蚕網織機、七桁計算機、土地測量機なども考案した。(「長野県歴史人物大辞典」より)

(3) 六九町の対岸には明治9年新築された学校が見えます。この校名を漢字で正確に書いてください。

開智 学校

5 右写真は明治40年ころ、千歳橋から西側を撮影した写真ですが矢印の建物はなんでしょう。

④ 松本郵便局

